

## 英語科「コミュニケーション英語Ⅱ」授業実践紹介

授業者：浮田 圭一郎

学 年：2年

単元名：英検二次試験合格を念頭に、自分の意見を英語で言えるようにしよう

単元のねらい（7つのチカラ：自分を理解する力、コミュニケーション力）

- ① 文法ミスなどの失敗を恐れず、自分の思っていることを伝えようとする態度を身につける。
- ② 話し手は、聞き手がイメージしやすいように論理立てて話せる方法を身につける。
- ③ 聞き手は話し手が伝えようとしている言葉を、しっかりと聞く態度を身につける。

### 単元の流れとパフォーマンス課題

1.（1時間目）教科書にある問いに対して、YESかNOか態度を明確にし、その理由と例を英語で相手に伝えるが、この日学んだ文法事項を盛り込む。

2.（1時間目中盤）模範解答を参考に、口頭で言えなかった部分を英作文してみる。出来上がった文を元にして音読練習で内容をインプットする。

### 英検に挑戦しよう ～YES or NO～

Today, many people play video games and mobile games. Do you spend a lot of time playing these games?



3.（1時間目後半）もう一度、同じ問いに対し、YESかNOの別の理由と例を付け足し（合計2つの理由と例を）相手に伝えてみる。

4.（2時間目）1時間目で行った問で示したYESかNOの逆の態度で相手にその理由と例を英語で伝えてみる。



### パフォーマンス課題の評価

英検準2級か2級の二次試験（自分の級を踏まえる）の過去問を実際にトライする。制限時間内にスピーチしてもらおうが、理由と例を必ず含めること。学んだ単語やフレーズも意識して使うことが望ましい。

- ① ルーブリックを意識し、10点以上を取る。
- ② これまでの授業の内容も踏まえ、論理立てて、積極的に話す。

### 単元を通して身につけてほしいこと

ゼロからスピーチを構築するのではなく、ペアワークで行うことにより、より対話的な学びができるようにする。主張、理由、具体例の順番で明確に意見を伝える基礎訓練である。教科書の本文のテーマを活用すれば、生徒は教科書で学んだ語彙を使って会話ができるので、会話がより活発になる。片言でも良いのでまずは話そうとする態度を身につけ、その上で必要な単語やフレーズを身につけることによって確実に相手に伝えたいことは伝わりやすくなる。その成功体験を増やしていくことで、英語を話すことが楽しいという姿勢を構築する。

## 実践の背景

- 新大学共通テストを見据え、現高校2年次生は外部検定試験（英検）に高い関心を持っている。教科書を音読する際は元気に声を出して読むことができる等、活動の際は積極的に参加している。しかし一方で、基本的な語彙や文法が身に付いておらず、頭で考えていることを口頭で英語にすることに苦手意識を抱いている生徒が多数を占める。

## 授業改善のアプローチ

- 外部検定試験の対策は、生徒個人のレベルではなかなか思うように実行できない。教科書などで学んだことを活かして、生徒が話すことに慣れ、話す力の基礎をはぐくむことができることが理想である。文法や内容理解に関する教師の説明が多すぎると、話す力を養成する時間は不足する。該当する文法事項を理解させるだけでなく、すぐに活用することにより、スピーキングやライティングで使えるレベルまで定着させる。
- 授業展開の流れは①発話活動を行った上で、②ライティングにより自らが発話した内容を振り返るとともに、その内容をさらに厚く膨らませる。最後にもう一度③発話活動で①で行った内容よりも自らが成長できているかどうかを実感する。内容を理解した英文の発話を数多くすることで、語句や構文の定着を高めたい。話すことへの抵抗感をなくし、話す力の基礎をはぐくみたい。説明を極力少なくし、活動を多く取り入れることで、外部検定試験に向けて自らの伸びを感じてもらいたい。

## 生徒の変容

- ある考えに対する賛成・反対を明確に表明し、その理由と具体例を述べる練習では、一人が聞き手として質問をし、発話を誘導しながら行った。最初は自分の意見を理由と具体例を添えて明確に伝えられなかった。一番に身につけるべき力は発話によって自分の考えを相手に伝える力である。正しい文法よりも、多少間違っても相手に自分の考えを伝えようとする態度が育ってきた。
- 授業の冒頭で英文法のポイントを理解させた後に、それを使った文例を暗唱し、実際に使ってみた。そのルールを定着させることで、スピーキングやライティングでも使えるようになった。
- 発話活動はすべて制限時間を設け、ある一定の時間内でどれだけ相手に自分の考えや思いを伝えられるかという設定にした。短時間で文章を組み立てることに頭を悩ませていたが、同じテーマを英作文してみることで、次の発話活動でスピーキングの改善が見られた

## 評価

表現方法（使用語彙、文法、語法）	5点 が適切であり、誤りがほとんどない。	4点 がほぼ適切であるが、小さな誤りが若干ある。	3点 に誤りがあるが、誤解を生じるほどの大きな誤りはない。	2点 に誤りがあり、意見の伝達に支障をきたす点が多い。
表現方法（発音、リズム、正しい強勢、イントネーション、区切り）	5点 を用いて、明瞭に流暢に話すことができる。	4点 を用いて、ほぼ明瞭に流暢に話すことができる。	3点 あまり明瞭、流暢ではないが、誤解を生じるほどの大きな誤りはない。	2点 明瞭、流暢ではなく、誤りがあり、自分の意見の伝達に支障をきたす点が多い。
述べるべき内容として、自分の意見とその理由・説明	5点 が詳しく述べられ、情報量が多く、随所に工夫が見られる。適切な表現方法でわかりやすく伝えている。	4点 を述べるることができる。ほぼ適切な表現方法で述べている。	3点 を述べているが、最小限の情報に留まる。表現方法にやや誤りが見られるが、誤解を生じる大きな誤りではない。	2点 がない。または説明になっていない。表現方法にやや誤りがあり、情報が乏しいなど、よく理解できない。

①パフォーマンス課題に対する評価（30%）

②毎授業の振り返りシート+その他の課題+小テスト（20%）

③定期考査による評価（50%）